

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日の暮らしの中でその人らしい生き方を見つけ出していただくと共に、ここで暮らすことが人生の中で一番幸せと感じていただけるような家庭的なホームを目指します」との理念をつくり上げている。	「利用者一人ひとりが幸せを感じながら自分らしく生きる事を支援する」という理念を開設以降、変えずに支援し続けている。全体会議やケアカンファレンス等でケアを振り返り、利用者本意の生活が提供できているか、理念に沿った支援であったかなどを話し合い確認し合っている。職員は理念を理解しており、自分の言葉で語る事が出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見、お祭り、どんど焼きなどの地区の行事に参加している。また中野小学校、高丘小学校とは運動会や文化祭等に参加し交流している。年1回豊田中学校の福祉体験の受け入れをしている。本年度より川掃除に参加し地域に協力させていただいている。近所の方から野菜や果物の差し入れが多い。中野小4年1組との交流会を毎月1回行っている。	自治会に加入しており、地域の一軒として奉仕活動や行事に参加している。中学生の福祉体験は学校側の依頼もあり今年度は人数を増やし受け入れている。小中学生との交流も定期的であり、利用者の方々の暮らしを豊にしている。ホーム周辺は果樹園や野菜畑が取り囲むようである。散歩中に畑から声をかけられ野菜や果物等を頂いたり、サクランボ狩りに招かれている。また、ホーム前の道は犬の散歩コースとなっているので、行き交う住民とも愛犬を通して顔馴染みとなるなど、年々、地域に溶け込んでふれあう機会が多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	安源寺地区のふれあいサロンでホームの様子を話し、このホームの事を地域の皆さんに理解していただくようにしている。中野市の視察にも来ていただき、このホームの説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告や話し合いをしている。家族代表、行政、地域包括、理事長、管理者、計画担当がメンバーとして参加している。現状報告や行事の報告、困ったこと等相談したり話し合っている。本年度は3月22日、7月11日、10月17日、1月8日に行い、2月27日、3月下旬を予定している。	家族代表、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員を委員とした会議を開催している。会議ではホームの実情などを報告し委員との質疑や地域・市からの情報等を頂いている。2ヶ月毎の開催は実施できなかったが、委員からの助言や提案等をサービス向上(ふれあいサロンへの参加、緊急時の家族の来訪に関する情報など)に活かすなど有意義な会議となっている。年々開催数を増やしてきており、次年度は2ヶ月毎(年6回)の開催に結びつけたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センターとは具体的な連絡を取り合い、相談、報告している。毎月第3火曜日に市が主催している「保健・医療・福祉事例検討会」に管理者と計画作成担当者として職員3名で出席している。中野市より介護相談員が2名きて入居者の相談にのってもらっている。	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センター職員が委員として出席し、制度等の情報を頂いたり不明なことは相談している。更新や区分申請は家族の意向を受け、担当窓口に出向き、ホームの様子を報告したり時には相談することもある。また、認定調査員が来訪した時は本人の様子を伝えていく。市主催の事例検討会に出席することで様々な情報を得ることが出来ている。介護相談員の訪問が3ヶ月毎にあるが担当者が交代し初めての来訪があったところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠はせず、チャイムや見守りによるケアを実践している。夜については家族の了解を得て、利用者の安全を確保する必要がある場合は施錠する場合がある。身体拘束について会議で話し合い職員同士で理解している。	身体拘束や行動を制限するケアを全職員は周知しており、日々、利用者が自由に居心地良くいられるよう取り組んでいる。外出したい様子があれば話を聞いたり、必要があれば一緒に出かけるなど、本人の意向に沿う支援が行われている。夜間は防犯上施錠している。	

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で、勉強会を開き職員も理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で、勉強会を開き職員も理解している。成年後見人制度の研修に管理者、サービス計画担当者で出席している。後見人制度について必要なケースがあったため包括支援センターや利用者で話し合い進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には文書で示し、口頭で説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員を受け入れている。	行事(新年会、夏祭り、敬老会など)には家族が大勢集まり交流している。家族が来訪した時は本人の日頃の様子を報告しながら意見・要望を伺うようにしている。家族は何かあれば直接口頭で伝えることが多い。頂いた意見は全体会議で報告し、検討した上で運営やサービスに反映させている。家族アンケートでは職員の支援に関し具体的な事例を挙げ、感謝する言葉が多かった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議を行い意見や提案を聞く機会を設けている。	全体会議には理事長も毎回出席し、認知症の事や福祉の事など幅広く研修を含めた講義もしている。会議では議題に沿って意見交換し、職員は積極的に意見や提案を述べている。日常的に管理者と話す機会があるので会議以外でも相談したり、気づきを伝えている。職員間の関係は良く、家族からも職員が活き活きと働いており、明るい雰囲気での訪問し易いとの好印象の言葉が聞こえている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、労働時間と仕事内容を把握し外部類似施設の給与水準と比較しバランスをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設の理念を確認し、職員の毎日のケアの中においても職員の力量に合った自己実現がされているか確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所・グループホーム連絡会を中心ネットワークを結び、定期的に他ホームとの職員交流を行い、職員とサービスの質の向上確認をしている。2ヶ月に1度北信GH交流会に職員4～5人が出席し、他のGHとの交流をしている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前から本人・家族と面接し、希望・要望を確認し、できるだけ意向に添えるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんなことでも、相談していただくようお願いしている。些細なことでも家族に報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思を確認し、その方にあったサービス利用を紹介したり相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活経験、習慣を尊重し、それを活かして過ごす事が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や昔からの趣味、特技をいかしていただけるよう家族と一緒に話し合い、ここで楽しく毎日を送っていただけるよう考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望した場合、行きたい場所には、お連れしている(自宅、店)面会、電話のとりつき、面会の場所を作り開放的にしている。	入居後も自宅と同じように近所の人や教え子、友人と会ったり、馴染みの店(理美容院、洋服屋など)に出かけるなど積極的に支援している。利用者は馴染みの人に会うととても喜んでいる。また、見慣れた場所に行くと嬉しそうな表情を見せている。お盆やお正月に、日帰りや泊りがけで自宅に出かける方もいる。面会者との関係を知るために面会簿の必要性を感じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り、雰囲気作り、仲間作りができるよう支援している。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の方・本人が訪問しやすいように努めている。退居後もその後の状況把握に努めるように連絡をとりあっている。退院後の相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握するよう意見を出し合い、話し合っている。	職員は利用者一人ひとりに理解し易い言葉や答え易い言葉で話しかけており、利用者の多くは自分の意思を伝えることが出来ている。得られた情報は全職員が共有できるように記録し、口頭でも伝えている。困難な方に関しては本人の目線で考え、また、家族とも相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の希望を聞いている。出来る限り今まで通りの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り、観察を行っている。定期的なアセスメントを行い現状の状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、意向を尊重しながら、より良い生活ができるよう検討している。職員の担当性をとっており、入居者のアセスメントを定期的に行い、職員全員で話し合っている。それを元に介護計画を作成している。	今年度はホーム独自のアセスメント表を作成しプランに役立てている。計画書は計画作成担当者が中心となり利用者一人ひとりのアセスメント内容を基に職員の気づきや意見を反映し作成している。見直しは3~6ヶ月で行っている。介護計画作成時には家族等に説明し同意を得ている。アセスメントは職員が利用者1~2名を受持ち実施している。職員はアセスメント表から以前にも増して本人をより深く知ることが出来ているという。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は必ず日誌に書くようにして情報を共有するようにしている。本年度より、個別の健康管理表を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応じ、柔軟な支援を臨機応変に行っている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域区長、民生委員、介護相談員等に協力を得て、ホーム内では対応できない事項等の支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談し、かかりつけ医等受診している。	本人、家族の希望から協力医に主治医を変更している方が多い。状態によっては協力医から紹介され、隣町の病院の訪問医の診察を受ける利用者もいる。月2回、医療連携先の訪問看護師が訪問し、利用者の健康管理や相談に応じている。訪問看護師が定期的に訪問することで服薬、食事、水分や排泄のことなど何でも相談でき、指示や指導があり、職員は安心しながら支援が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な場合には市の保健師、栄養士に相談している。新生病院訪問看護ステーションとの医療連携の契約をして定期的に(月2回以上)訪問してもらい、看護師に医療行為、相談をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談、情報交換している。入院中職員が面会に行き、医師、看護師から状態、経過等を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全体会議で終末ケア等について職員全員で話し合っている。状態により早いうちに家族、主治医と話し合いを行っている。本年度より訪問看護ステーションと医療連携を取るようになり、重度化や終末期に向けた支援にチームケアで対処していきたい。	看取りに関する指針があり契約時にホームの看取り支援について説明し、本人、家族の同意を得ている。本人が終末期状態になった時に改めて意思確認する旨も記されている。終末期をホームで過ごし、「今なら自宅で看取れる」との医師の言葉から自宅に帰り、子供達に見守られながら最期を迎えた方がいる。そのほか、医療機関に移られたケースもある。看取り対応の場合は医師、看護師と連携しながら心を尽くした支援に取り組みたいと考えている。往診可能な協力医がいないため看取り対応の場合は隣町の病院の訪問医に依頼することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時について慌てず対応できるよう会議で話し合っている。職員全員が応急手当等の訓練を、これからは定期的に行っていききたい。訪問看護ステーションと常に連絡を取るようになりたい。本年度は、3名の職員が普通救命講習を受けている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方、近所の方に来ていただき、昼、夜の避難訓練を行っている。近所の方に協力をお願いし、承知していただいている。	年2回消防署の指導を受けながら利用者参加の上、通報や避難誘導訓練、消火器の取り扱い訓練などを行っている。春は夜間訓練を行い昼間想定訓練は3月末に予定されている。今後地域に協力をお願いするに当たり、災害時に何を依頼するのか、具体的な内容などを検討しようとしている。防災設備はスプリンクラー、通報装置、火災報知機、消火器、誘導など消防法指定のものが全て揃えられている。食料品等必要な物品の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応、記録等には一人ひとりの気持ちを大切にしている。全体会議で入居者の尊厳やプライバシーについて話し合っている。	会議の折に理事長から人権尊重、個人情報の保護やプライバシー等に関する指導を受けている。排泄や入浴時にはプライバシーに配慮しながら支援している。共同トイレの入口はのれんが下がり、個室はカーテンと二重になっているが、職員は留意しながら支援している。利用者は名前や苗字に「さん」をつけて呼んでいる。以前の職業から「先生」と呼ばれている方もいる。先生と声掛けすると「ピシッ」とされるようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をじっくり聞く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中にも一人ひとりのペースを保てるようにしている。利用者に関わる時はゆったり優しく対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む時、望む店に行けるようにしている。訪問理容を受けている方もいる。毎朝くし、お化粧道具を渡し、おしゃれにされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや色あいに食欲をそそるような工夫をしている。利用者の方に準備・片付けを一緒にやっていただいている。できるだけ職員と利用者は一緒に食事を摂る。一緒に調理出来る方には皮むきなどお手伝いをお願いして一緒に調理している。	食材の買出しは冬季以外利用者と共に出かけている。食べることが楽しみの一つなので彩り良く、季節に合った献立を考え、何を食べたいか希望を聞いてメニューに加えている。残渣は殆ど出ない。食形態ではカユ、キザミの対応があり、お茶のみトロミの方や治療食、食事制限の利用者もいる。アセスメント表には食事に関するチェック欄もある。利用者は食堂に来ては「牛乳飲みたい」、「コーヒー頂戴」、「お茶を」と希望し、好きなものを頼んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて盛りつけ量や水分量を調整している。食事制限のある方には代替りのものを付ける等している。健康管理表に食事量、水分量等記入している。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの見守り、声かけ介助を行い、歯みがきのチェックをしている。義歯の方は夜お預かりし、ポリドントで消毒を行い管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、排泄パターンを把握し、排泄の声かけ、誘導している。排泄表をつけて確認している。	排泄はオムツ、リハビリパンツ、布パンツを使用している。トイレが居室にあるユニットの利用者は昼・夜、居室で排泄し、共同トイレのユニットの利用者は日中はトイレを使用するようにしている。排泄表を確認しながら必要時に声かけや利用者の様子を見て見守りをしている。排泄介助の声かけや対応はプライバシーに配慮しながら行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・海藻を多く摂取し、水分も多めに摂取していただき体を動かしていただくよう努めている。受診時に医師から便秘薬を処方されている方もいます。排泄表をつけて確認している。便秘がひどい時には、訪問看護師に摘便、浣腸をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に声かけし、一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。毎日の入浴もシャワーも可能である。仲の良い利用者同士で入浴されることもある。介助が必要でない方にも万が一に備えそつと見守りをしている。	週2回以上入浴している。一日に4～5名が午前中(日によっては午後も)に入浴している。菖蒲湯、バラ湯や柚子湯など、季節の香り風呂を楽しんでもらう工夫もしている。気がすまないで風邪気味だと一時拒む方もいるが、入ってしまうと「何て気持ちがいいんでしょう」と満足の声を上げるといふ。職員と一対一になり昔の話をしたり歌を歌う方もいる。職員二人対応で支援する方も多い。浴室のカレンダーには連日入浴者の名前が書き込まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの気持ちに合わせた自由の生活を心がけている。昼間は身体を動かす事を支援し、夜間、良眠していただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の処方箋をご利用者毎にまとめ一冊のファイルに綴り、付箋をつけて見やすいようにまとめてある。各自、お薬手帳をもっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴(趣味、職業等)を聞き、ここでの役割や楽しみごと等で活かしていたっている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って戸外に出かけるようになっている。(自宅、美容院、受診、銀行、買物、外食等)	冬季以外、天気の良い日は30～40分、ホーム周辺の散歩に出掛け外気にふれ、気分転換している。車椅子の方は敷地周辺の散策と日光浴をしている。ドライブがてら大型店へ買い物にも出かけている。期日前投票や選挙、理美容院、銀行、買い物など個別支援も家族の協力を得ながら積極的に支援している。小学校に出かけ、先生達の研究授業の題材として利用者が小学生との交流の様子を再現した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を個人で管理できる方には、希望や、力量に応じて支援している。他の方はお金をお預かりし、金銭出納帳に記入して管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は取り次ぎ、かけたい希望がある場合には希望に添うよう対応している。居室に電話を設置されている方もいる。手紙が届くと本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オールバリアフリーで食堂、居間、廊下と柔らかな照明のもとで安全性に優れた家具を備えている。装飾は季節により変化し、手作りで楽しめる工夫をしている。	キッチン、食堂兼居間はワンフロアであり、広々としている。ドッシリとしたソファで談笑したり食堂で作業したりと利用者のはのんびりその人のペースで過ごしている。ユニットを結ぶ廊下には交流する子供達のメッセージ、スポーツ選手のペナントなどが掲示されている。2階の利用者はエレベーターで移動している。床暖が完備されており、室温計により温度調節がされており、窓越しには冬景色が見えたが寒さ・暑さを感じず生活できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファや廊下にベンチを置いたり、利用者同士でも楽しめる。食堂にはいつでも気軽に来てお茶が飲めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、装飾品、電気製品等を自由に持ち込んでいただいている。こたつ等を楽しんだり自由な部屋作りをしていただいている。	各居室には馴染みの物(家族写真やアルバム、たんす、椅子、テレビ、電話とFAX、冷蔵庫等)が持ち込まれ、居室作りがされている。それらを見たり触れることで居心地良く過ごすことができている。丸テーブルの上に週刊誌が何冊も置かれている居室や演歌歌手のポスター・グッズで溢れている居室もある。利用前からの個性的で自分らしい生活を継続している様子を窺うことが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて居室等にわかりやすい貼り紙をしたりして混乱しないよう工夫している。電気等の設備も本人が使いやすいように直している。		